

場所： 日本勤労者山岳連盟事務局（飯田橋）

日時： 2016 年 5 月 23 日（月） 14 時—17 時

定足数（11 名=理事数 15 名中 2/3 以上）確認：出席理事 13 名+委任状 2 名により定足数を満たした。

理事数 15 名、出席者 松田、児玉、矢吹、川嶋、宍戸、青木、藤田、鈴木、小西、縫村、大前、堀、上野 13 名、委任状 2 名（欠席理事 2 名の委任状）

1. 2015 年度 事業・決算報告（宍戸、鈴木）

<報告>

1) サイエンスアゴラ 2015 に出展を行った。（11 月 14 日）

2) 「南岸低気圧とそれに伴う気象・雪氷災害に関する研究会」を気象学会・メソ気象研究会と協賛で開催した（8 月 10 日）

3) 積雪断面観測講習会を、北信越支部と共催で実施した。（2 月 13 日）

4) ホームページ・メーリングリストの運営・更新を行った。

事業予算（16 万 5 千円）に対し、上記事業および支部会開催会議費の支出が 91600 円派生した。支部で独自に管理していた通帳を解約し、22286 円を学会会計に返納した。

2. 2016 年度 事業計画案および予算案

<審議事項>

以下の事業を今年度計画する事が了承された。（ ）内は事業担当。今年度の予算は 245500 円を計上し、学会理事会にて了承されている。

1) サイエンスアゴラへの出展（11 月 5 日）および大雪災害に関する情報収集（宍戸）

2) 市民参加型の積雪調査法の開発（松田）

3) GIS 研修会（縫村）

4) 支部表彰制度（鈴木）

5) “関東地方の大雪に備える”と題したシンポジウム（上野）

6) ホームページ・メーリングリストの運営、およびニュースレターの代行となる情報開示（縫村）

7) 支部総会・理事会の開催（松田、上野）

3. 2016 年度・全国大会の準備状況（矢吹・青木）

名古屋における雪氷研究大会の準備状況が報告された。22 件のスペシャルセッション応募があった。

4. その他

特になし。

※理事会に引き続き、1 名の追加参加者を加えた総会を開催し、上記を承認した。さらに以下 3 名からの話題提供を行った。

「最新検索機器『ヒトココ』について」（川嶋、日本勤労者山岳連盟）

「雪氷学会特別セッション、雪氷学分野におけるオープンサイエンス

(研究成果、データ、手法のオープン化)についての紹介 (縫村、千葉科学大学)
「雪、友の会 (仮称)」 立ち上げの提案 (松田、支部長)